

自主防災組織の中核を担う 「仙台市地域防災リーダー(SBL)」

問い合わせ
減災推進課
☎214・3109
FAX214・8096

東日本大震災の教訓を生かし、地域で防災に取り組む「仙台市地域防災リーダー(SBL)」。泉区の町内会で行われたSBLの研修会取材しました。

市では、自主防災組織の活性化を図るため、平成24年からSBLを養成しています。SBLは、現在市内に597人。町内会長などを補佐しながら、地域で防災活動の中心的な役割を担っています。

「震災後の平成24年に町内会で募集された防災ボランティアに応募し、防災に携わり始めました。防災に関わるうち、もっと勉強したいという思いが強くなり、SBL養成講習を受けました」と話してくれたのは、加茂四丁目町内会でSBLとして活動する杉浦^{とものり}さん。

「震災時、町内会の防災倉庫に防災用品はありましたが、使い方が分からない。これではいけないと感じ、震災後、災害時に地域で中心となって動く町内会役員等向けに毎年、研修会を行うようにしました。研修会では、防災用品の置き場所を説明したり、機材を実際に組み立てて使ってみたりしています」と杉浦さん。

また、杉浦さんは、防災のためには、近隣の町内会や指定避難所となる学校、補助避難所の市民センター等と連携を図る必要があると話します。「災害時は、学校を避難所として使わせてもらい、近隣の町内会と一緒に運営します。日頃から顔を合わせて情報を共有し、訓練を行うことが、スムーズな避難所開設・運営につながります」。



▲「今後も、町内会と協力してSBLの活動を行っていきたい」と話す杉浦さん

地道な研修や訓練の積み重ねが、一昨年9月の関東・東北豪雨に伴う避難所開設・運営でも役立てられ、夜間、大雨の中でも迅速に避難所開設ができたそうです。

杉浦さんは、「これからも継続的に地域の防災活動に携わり、次の世代にも備えることの大切さを伝えていきたい」と意気込みを語ってくれました。



▲実際に伸縮式はしごを伸ばして、使ってみます

▶研修会は、公園内に設置した防災倉庫前で行います



ごみ減量・分別の豆知識

生ごみにちょっとした工夫を



ワケアップ! 仙台

家庭ごみのおよそ3割も占める生ごみ。その生ごみを減らすキーワードは、重量の約80%を占めるといわれる「水分」。水気を切ればごみの重量が減り、さらに水分が主な原因となる生ごみの臭いも軽減するので、一挙両得です。



また、野菜などを洗う前に皮をむくのも、生ごみの水分を減らすコツです。

ちょっとしたひと手間で、生ごみの量も嫌な臭いも減らしましょう。

問家庭ごみ減量課 ☎214・8229、FAX214・8277

知って役立つ! ワンポイント防災講座

防災「家」探検をしてみよう!

夏休みは、家族みんなで防災を考える良い機会です。家の中にある物で、防災に役立つ物を探す「探検」をしてみましょう。

台所にある食品用ラップフィルムは、応急手当にも、お皿の汚れ防止にも使えます。レトルト食品や缶詰など、普段食べているもので非常食になるものもたくさんあります。新聞紙やダンボール、ビニール袋などは災害時にどのように役立つか考えてみたり、そのほか役立つものはあるか探してみたりしましょう。



問減災推進課 ☎214・3109、FAX214・8096